2013年7月

老朽化したＵＰＳ（交流無停電電源装置）を御使用されていますユーザー様に重要なお報せ

平素はＵＰＳをご愛顧いただきましてありがとうございます。
今回 老朽化したＵＰＳの危険性をお報せさせて頂きます。
以下のような耐用年数を超えてご使用のＵＰＳがございましたら、
是非弊社までご相談頂けますよう御願い申し上げます。

■ 経済情勢の影響によりＵＰＳの耐久年数を超えてご使用されているケースが出てきております。

多くのＵＰＳについて、バッテリ・装置本体の製品寿命は下記の通りです。
・バッテリ寿命【*３～５年】
・装置本体寿命【*１０ｋＶＡ以下：約５～６年、１０ｋＶＡ超：約６～１０年】

*財団法人　日本電気工業会（ＪＥＭＡ）のパンフレットより
ＪＥＭＡのパンフレットは下記ＵＲＬからダウンロード頂けます。
https://www.jema-net.or.jp/jema/data/07-UPSbatteri.pdf

■ バッテリ、装置本体寿命期を超えてのご使用されますと、経年劣化による部品、接続部（ハンダ付け、コネクタ部）の故障による発熱・発煙など思わぬ障害を発生する危険が増加します。

・停電時のバックアップ時間が短い、またはバックアップしないことによるデータの消失、通信障害による業務停止など
・バッテリケース亀裂による液漏れ、及び異臭・発煙・発火などの二次障害

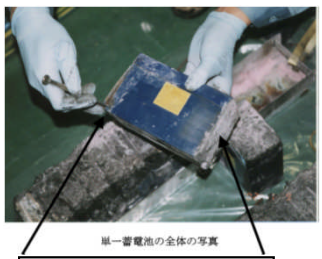
■ ＵＰＳのバッテリ・装置本体の製品寿命は下記の通りです。
・バッテリ寿命【３～５年】
・装置本体寿命【約６年】
これらの期間が経過していますＵＰＳをご使用されている場合、速やかにＵＰＳの一式交換（リプレース）、バッテリ交換を実施頂けますよう御願いします。

また、直ちに上記対策が困難であればＵＰＳの使用を中止し取外しを推奨します。
尚、バイパス運転切換での運用についてはバッテリへの充電が停止せず、バッテリの劣化が継続する場合がありますので 販売店、メーカーにお問合せ下さい。

■ 取扱説明書をご確認いただき、ご不明な点がございましたら販売店・メーカーにご相談下さい。

【障害事例】

UPS内部延焼



ﾊﾞｯﾃﾘ亀裂、延焼

【お問合せ先】
北勢電気株式会社
059-365-3151